

(1) 実施機関名：

気象庁

(2) 研究課題（または観測項目）名：

火山活動の総合判断

(3) 関連の深い建議の項目：

5 計画を推進するための体制の整備

(1) 推進体制の整備

(4) その他関連する建議の項目：

5 計画を推進するための体制の整備

(2) 総合的研究

エ. 桜島大規模火山噴火

オ. 高リスク小規模火山噴火

(6) 社会との共通理解の醸成と災害教育

(5) 総合的研究との関連：

桜島大規模火山噴火

高リスク小規模火山噴火

(6) 平成30年度までの関連する研究成果（または観測実績）の概要：

火山噴火予知連絡会定例会（年3回開催。平成26～30年度は15回）において、全国の火山活動の状況についての検討を行った。検討結果は定例会終了後に報道発表し、気象庁の「火山の状況に関する解説情報」で発表するとともに、気象庁ホームページでも公表した。

また、噴火もしくは火山活動の活発化を受けて拡大幹事会を開催し、現状の確認、今後の活動の推移の検討、及び必要な観測及び調査等の検討を行った（平成26年9月の御嶽山の噴火について2回、平成26年8月及び平成27年5月の口永良部島の噴火について2回、平成27年の桜島及び口永良部島の活動について1回、平成29年10月の霧島山（新燃岳）の噴火について1回、平成30年1月の草津白根山（本白根山）の噴火について1回開催）。

活動が複数の火口で活発になり長期化も懸念された草津白根山及び霧島山については、火山噴火予知連絡会に草津白根山部会及び霧島山部会を設置し、平成30年度にそれぞれ3回及び2回開催して活動状況の確認や今度の推移の検討、必要な観測及び調査等の検討を行った。

この他、平成26年の御嶽山の噴火を受けて、観測体制のあり方（特に水蒸気噴火に対して）及び火山情報の提供のあり方について、それぞれ火山噴火予知連絡会の火山観測体制等に関する検討会及び火山情報の提供に関する検討会で検討され、検討結果を報告として取りまとめて公表した。また、火山活動評価検討会において、監視・観測体制の充実等の必要な火山の検討及び活火山の選定の検討を随時行い、平成26～30年度に八甲田山、十和田、弥陀ヶ原が常時観測火山に、男体山が活火山に新たに選定された。

(7) 本課題の5か年の到達目標：

防災関係機関の防災活動に資するため、引き続き全国の火山活動の状況について総合的な判断を実施する。特に噴火が近づいた火山や噴火中の火山について、最新の研究成果に基づき現在の状態から火

山噴火や噴火終息に至るまでの過程についての噴火推移の予測を試みる。

(8) 本課題の5か年計画の概要：

火山噴火予知連絡会（定例会、臨時会）、あるいは、規模の大きな噴火発生時等の社会的影響が大きい場合に特定の火山を対象に設置した部会において、噴火発生の可能性や火山活動の推移の予測等について評価し、その結果を火山噴火予知連絡会統一見解等に取りまとめて報道発表や気象庁の火山情報で公表する等により社会に分かりやすく発信するとともに、各地の火山防災協議会にも提供して防災・減災活動を支援する。

また、研究成果・観測結果の情報交換、火山観測データの流通・共有の促進、活発化した火山における臨時観測に係る総合的な調整、研究成果の社会への発信などを通じて、火山噴火予知研究の推進に寄与する。

(9) 実施機関の参加者氏名または部署等名：

気象庁地震火山部火山監視課（火山噴火予知連絡会事務局）、気象庁地震火山部・札幌管区气象台・仙台管区气象台・福岡管区气象台火山監視・警報センター
他機関との共同研究の有無：有
火山噴火予知連絡会に参画する関係機関

(10) 公開時にホームページに掲載する問い合わせ先

部署名等：地震火山部管理課 地震調査連絡係長
電話：03-6758-3900(内線：5114)
e-mail：jmajishin_kanrika@met.kishou.go.jp
URL：http://www.jma.go.jp

(11) この研究課題（または観測項目）の連絡担当者

氏名：碓井勇二
所属：気象庁地震火山部火山監視課